

Hop Step Jump

1

平成 27 年度 (2015 年度)

初任者研修 開講にあたって

平成 27 年度 (2015 年度)、初任者研修に 105 名の仲間を迎え、新たな年度がはじまりました。

豊能地区 (豊中市、池田市、箕面市、能勢町、豊能町) は、政令指定都市を除き、全国で初めて、人事権の移譲を受けた市町です。皆さんは、豊能地区独自の採用選考に合格された第 1 回の記念すべき方々です。豊能地区の子どもたちのために、皆さんと一緒に仕事ができることを嬉しく思います。

さて、この初任研通信は、豊能地区で行う共通研修のアンケートをもとに作成します。研修を受け、お互いが何を考えどう感じたのか、研修を振り返るとともに、受講者の皆さんどうしがつながるきっかけになればと考えています。言ってみれば私たちの学級通信です。また、研修を受講していない方にも、研修の内容を知っていただき、市町実施研修や学校での研修が有機的につながるきっかけになればと考えています。

まずは、採用前セミナー I II でのアンケートから。1 月時点での皆さんの心境をお天気で伺いました。

晴れ。人との出会いに向けて準備することはたくさんありますが、楽しみな気持ちが強いです。

同じ晴れでも、風が強かったり、ぽっかりと雲が浮かぶ晴れ、少し雪の積もった晴れという答えも。そして、

晴れ時々雨。ずっと夢見ていた小学校教諭になれる日がとてもたのしみで、わくわくして晴れています。しかしまだ未熟である自分が一人前になれるのかと、ふと不安になって雨が降る時があります。

こんな人もちらほら。でも、一過のすがすがしい晴れを期待できます。

台風です。勤務地域も決まり準備で大忙しですが、やることをすませたら晴れやかな気持ちになれると思います。



皆さんの複雑な心持ちは、お天気を例に豊かに表現されていると思います。さて、いよいよ本当にスタートしましたが、今のお天気はいかがですか？

採用前セミナー I では、人間関係づくりのワークショップを、II ではマナー講座を行いました。

「採用前セミナー」という言葉から、もっとも固い雰囲気が進んでいくのかと思っていたが、リラックスしながら受講することができた。もっと豊能地区メンバーと関わりたい。

自己紹介をし合える機会があったことで、つながりができ、不安を言い合えて気持ちの負担は自分だけではないことがわかり、一緒にがんばっていこうと思えるものでした。

採用試験が終わり、日々の生活に追われる中で、4 月からの新生活への気持ちが少し遠のいていましたが、周囲の人達の熱い思いや、セミナーでのお話をきくことで、心新たに、さらに、教員になれることへの気持ちが強まり、身が引きしめる思いがしました。

Yes

No

自己紹介を中心にしたワークで、お互いの気持ちを聴き合うなかで、皆さんの距離が少しずつ縮まっていくのを感じました。また、採用前セミナー II では、

社会人になるにあたってのビジネスマナーを学び、知らないことだらけだと感じた。今回のセミナーを受講していなければ、社会人になって恥をかくところだったと思う。たくさんのことを学ぶことができたので良かった。

保護者の方の印象は、やはり見た目の第一印象であると再認識しました。これは子どもたちにもいえる事だと思うので、笑顔で元気に好印象を与えられる教師でありたいと学びました。ありがとうございました。

マナーについて、とても勉強不足だと痛感したので、まず、マナー本などを 1 冊買って、勉強しようと思った。先生だから許されることがないというのが印象的だった。ビジネスマナーができて当たり前なのだ実感した。



「自分を躰ける」印象的でした。1 回や 2 回の講座ですべてを教えることも、また、すべてを修得することもできません。上の方も書いてくれているように、自ら学ぶきっかけにすることが大切かと思います。またこれからの研修も「学ぶ」きっかけとしたり、自分の考え方に新しいフレームを与えるきっかけにしてもらいたいと思っています。

☆先輩からのメッセージ

では続いて、昨年度、初任者研修を受けていた先輩からのメッセージです。1年間の学びというのは本当に大きいと感じます。日々、子どもたちと向き合い、自分と向き合いながら、過ごしてきた先輩たちからの実感のこもったエールです。



採用試験、合格おめでとうございます。開校式を迎える今、みなさんは赴任校がわかり、いろいろな学校の決めごとや、職員会議、教室の整備など、慌しく一日一日が過ぎていていると思います。子どもたちとの出会いが楽しみだけど不安だと感じている方も、いらっしょると思います。今の、素直な気持ちを大切にしてください。謙虚な気持ちで、学んでいってください。きっと、子どもたちや保護者の方々、他の教職員の方々が、あたたかく支えてくれます。「わからないことがわからない」状態だと思いますが、できることから一つずつ、ぼちぼちやっていきましょう。応援しています。

先生として子どもたちの前に立ち、簡潔な言葉で的確に指示を出したり褒めたり叱ったりすることはとても難しいことで、すぐにできないかもしれません。分からないことや悩んでいることがあれば、周りの先生方に聞きながら、とにかく色々やってみる中で、自分の学級の子供たちにうまく合うやり方が見つかっていくのかもしれないと思います。また、この一年間の中で子どもたちとの関係について、私が感じたことは、一緒に勉強したり遊んだり給食を食べたりする中で、子ども一人ひとりとの関係ができていくのかなあということです。子どもたちは喜んで先生のお手伝いをしてくれます。たくさんこちらを助けてくれます。

仕事は多岐に渡り、量も多く毎日大変です。時には弱音を吐いたり、休みの日には体をしっかり休めたりすることも大事です。その一方で、やはり先生という仕事は、子どもの成長をそばで見ている直接かかわることができる素晴らしい仕事だと感じます。私自身、まだ分からないことやできないことだらけですが、一緒に学びながら成長し、子どもたちの良さを引き出し、成長させる、素敵なお先生になっていきましょう。

学校現場において、全ての答えは子どもたちの中にあると思います。仕事をしていて、大変だと感じる事や、頭を抱えなくなるようなこともあります。しかし、そういったときに支えになるのは子どもたちの姿です。日々、成長している様子や、こんなことができた、あんなことができた子どもたちが喜んでる姿を見ると心が癒されます。授業をつくる中で、迷ったときには子どもたちを見てください。この仕事のポイントは、子どもたちの表情や様子を見ることだと思います。また、子どもたちのために動きたいという気持ちが大きな支えとなると思います。

時間に追われ大変なこともありますが、とてもやりがいのある仕事です。子どもたちの少しでも役に立てるように自分自身も日々、精進しています。一緒にがんばりましょう。

私は講師を5年間して、採用されました。今までも学校現場で働いてはいましたが、初任者として過ごす一年は今までは気持ちがまったく違っていました。今までは、子どもたちを3年間でどう導いていくのかを話し合っても、自分はもしかしたらないかもしれないという思いがあったのでなんだか気がはいりきらないままでした。でも、採用されてからは未来を見てしっかりと話し合えるようになりました。自分自身の心配をせずに子どもたちのことだけを考えていられるというのは、こんなにも気持ちが違うのかととても驚きました。目の前のもやが晴れたような1年間でした。毎日学校ではいろいろな出来事が起こります。心が折れそうになることもたくさんありますが、周りの先生方がきくと助けてくださるので、協力して頑張ってください！

教師は《与えるもの》ではなく、《与えられるもの》だと実感しました。

学級経営や授業作りで、自分の思ったことをどんどん取り入れ、子どもたちの反応から学び、試行錯誤している先生のクラスは、とても生き生きと輝いています。たくさんの人からいろいろなことを学ぶことができる初任の年は、これからの教員の土台となる幹を太くしていく絶好の期間です。

みなさんのこれからの頑張りは、子どもたちからきくと返ってきます。共に頑張りましょう！